

国文学科の学生による図書館展示企画 ○○したいと思っている人に読んでほしい！—あなたの「恋」はどんな形ですか。今、誰を想像しましたかー？ によせて

国文学科 教授 光 石 亜由美

国文学演習Ⅰ・Ⅱの光石ゼミで学んでいる学生たちで、ジェンダーと文学について広く知ってもらえるようにと、図書館展示を実施しました（開催期間：2024年7月6日（土）～8月31日（土））。まず、ブレインストーミングで、展示のコンセプトを出し合い、全体テーマを〈恋愛〉に決定しました。

次に3つのグループに分かれて、テーマや展示する作品を話し合いました。

一つ目のグループは、LGBTQ+ や、アイドルや二次元に対する叶わない恋などを描いた小説を中心に展示をした「様々な恋の在り方」をテーマ



○○したいと思っている人に 読んでほしい！

あなたの「恋」はどんな形ですか。
今、誰を想像しましたかー？

展示期間:2024年7月6日(土)～8月31日(土)

展示場所:奈良大学図書館 入場料:無料！

主催:奈良大学国文学科・国文学演習Ⅰ(大)ゼミ生(19名)

担当:光石 亜由美

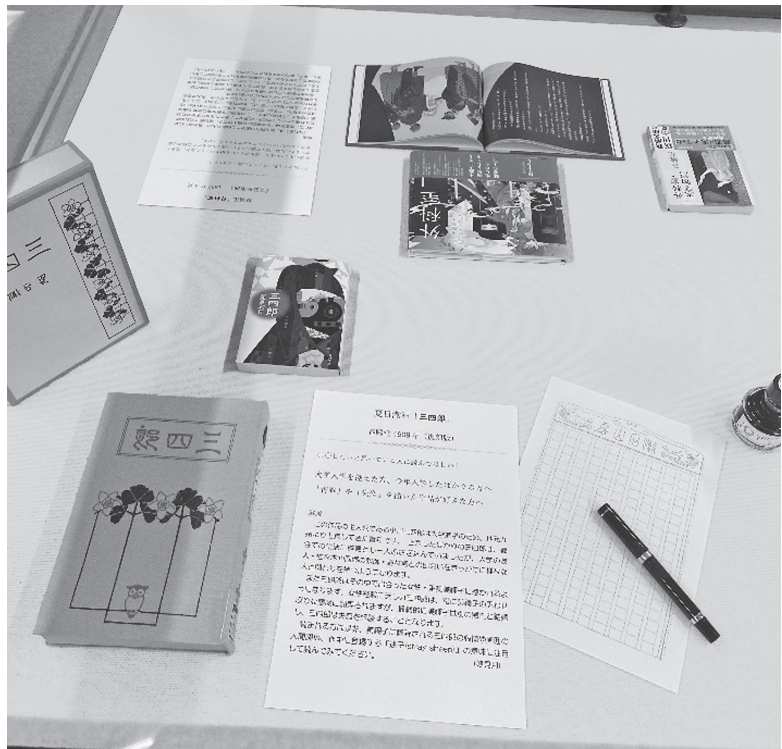
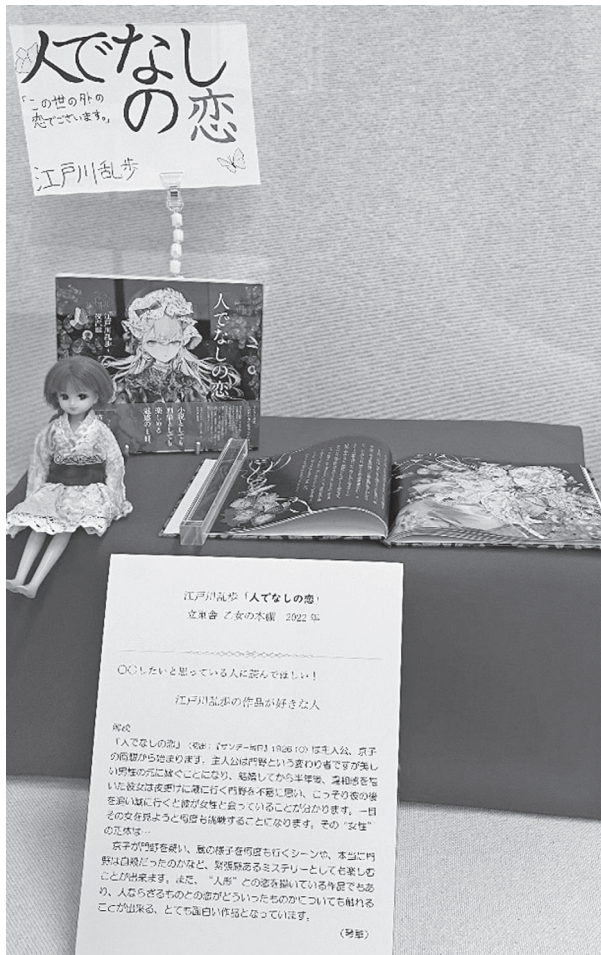
に、二つ目のグループは、告白、プロポーズを対象とした映画、漫画、アニメ、小説を展示した「I LOVE YOU を訳しまSHOW」をテーマに、三つ目のグループは、近代から現代までの悲しい恋を描いた作品を展示した「恋愛に涙は必要ですか？」をテーマとして、それぞれのグループが担当する展示ブースのコンセプトをさらに練り上げました。

全体と各ブースのコンセプトがまとまったところで、島本副学長兼図書館長、松井事務局長、磯野課長の前で、代表の学生さんの3名が展示企画

のプレゼンテーションを実施し、いろいろご意見をいただきました。

展示に向けては、一人一人が選択した作品の解説文を書き、展示のパネルを作成しました。また、企画班、展示班、広報班、パンフレット班、ポスター班などに分かれて作業をし、展示作業も学生さん自身で行いました。来場者アンケートを、QRコードを通じてGoogleフォームで集めるというアイデアも現代の学生さんならではの発想でした。

以下の文章は、学生さんが書いた企画主旨の一部です。——「これらの展示を通して、今一度自身の恋愛観を見直す機会にしてほしいと考えています。男性と女性の恋愛だけが「恋」ではなく、色々な形や種類の「恋」が今日も私たちの生活する世界で存在しています。あなた自身や周りにいるであろうその人たちの気持ちの理解が深まるきっかけとなれば幸いです。」——展示を見にきてくれた方々に、学生さんたちの想いが伝わったのではないかと思います。



(展示作品一覧)

(1)『様々な恋の在り方』

浅原ナオト「彼女が好きなものはホモであって僕ではない」KADOKAWA 2018年／吉田恵理香「恋せぬふたり」NHK出版 2022年／藤野千夜「少年と少女のポルカ」ベネッセ 1996年／前田健「それでも花は咲いていく」幻冬舎 2009年／小川糸「にじろガーデン」集英社 2014年／李琴峰「ボラリスが降り注ぐ夜」筑摩書房 2020年／宇佐美りん「推し、燃ゆ」河出書房新社 2020年／宮木あや子「婚外恋愛に似たもの」光文社 2012年／江戸川乱歩「人でなしの恋」立東舎 乙女の本棚 2022年

(2)『I LOVE YOU を訳しまSHOW』

高橋留美子「めぞん一刻」(15巻) 小学館 1987年／蒼川なな「合コンに行ったら女がいなかった話」(第3巻) スクウェア・エニックス 2022年／あだち充「タッチ」(12巻) 小学館 1984年／綿矢りさ「生のみ生のままで」集英社 2019年／映画「ユー・ガット・メール」ノーラ・エフロン監督 1999年2月公開／映画「ザ・エージェント」キャメロン・クロウ監督 1996年12月公開／藤谷燈子「金曜日のおはよう」角川ビーンズ文庫 2016年／吉屋信子「花物語」実業之日本社 1939年(復刻版)

(3)『恋愛に涙は必要ですか?』

泉鏡花「外科室」立東舎 乙女の本棚 2018年／夏目漱石「三四郎」春陽堂 1909年(復刻版)／太宰治「葉桜と魔笛」立東舎 乙女の本棚 2016年／ムササ「恋と嘘」講談社 2015年／村上春樹「ノルウェイの森」講談社 1987年／冬野夜空「一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない」スターツ出版株式会社 2020年／風良ゆう「汝、星のごとく」講談社 2022年

～プレ展示～

ホウライ写真館－奈良大学のさいしょの最初－ によせて



今年、2025年（令和7）は学園創立100周年の記念の年です。学園のはじまりは、1925年（大正14）3月に奈良県から設

置認可された夜間中学・「南都正強中学」の創立にさかのぼります。

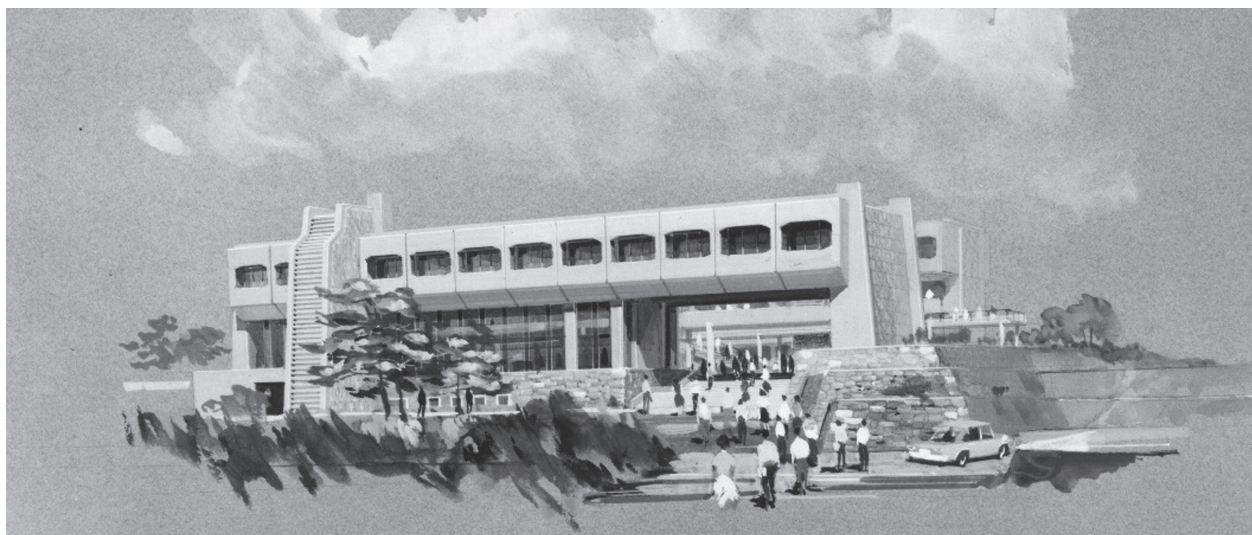
学園の創設者、^{やぶうちけい じろう}藪内敬治郎先生（1886-1977）は、1904年（明治37）奈良県立郡山中学校を卒業後、陸軍士官学校へすすまれ、1923年（大正12）陸軍を少佐で退役されました。その翌年、1924年（大正13）、数学の教員として天理中学校に赴任され、その赴任中の1925年（大正14）3月に退職金その他の私財を投じて夜間の「南都正強中学（旧制）」を設立されました。勤労学生のために5年制の無月謝とする学校であったといえます。



大学起工式で鋤入れを行う藪内先生

時は過ぎ太平洋戦争終戦後、南都正強中学は新制の奈良県正強高校となり、戦後の混乱で藪内先生は教職追放指令で学園を離れた時期もありましたが、先生の復帰後1954年（昭和29）には中学を設立しました。中学高校のみならず総合学園をめざして、1966年（昭和41）に正強幼稚園を新設、続いて1968年（昭和43）4月の理事会で大学の新設が決定され、大学の設置準備がはじまりました。同年9月、文部省（当時）への設置認可を申請し、翌1969年（昭和44）3月に「奈良大学」の設置が認可されました。

設置認可申請と並行して、1968年（昭和43）7月に奈良大学起工式が行われ、学舎の建設もすすみ、翌1969年（昭和44）4月に第一期工事が完成し、奈良市宝来（ほうらい）町1215番地に奈良大学は開学しました。文部省からの大学設置の内示は同年1月で、その時点からの募集活動と複数回



初期の完成予想図

の入学試験により一期生の志願者は86名、56名の入学者を迎えてスタートしました。

この度、学園100周年を迎えるにあたり、奈良大学の黎明期を垣間見るため「ホウライ写真館－奈良大学のさいしょの最初－」と題しまして、大学の最初期の約20年を振り返りたいと思います。薮内先生はじめ当時のみなさまが、芳しくなかったと想像できる学園の経済状況などを振り切って



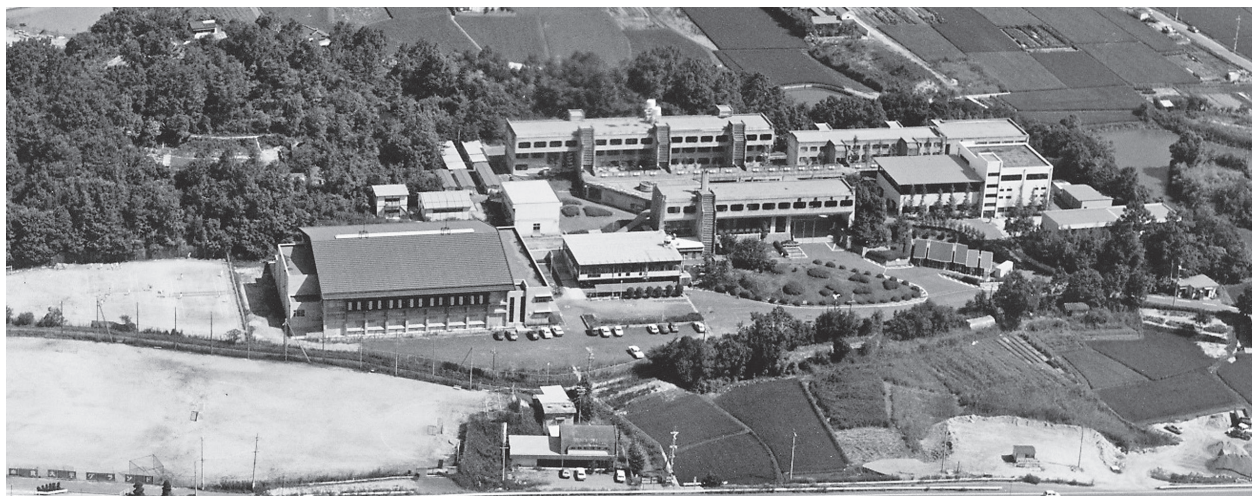
図書館完成予想図（第五期工事）



学舎の第一期工事の様子

大学を設置された気概は、教育に際する熱量そのものではないでしょうか。

今回の図書館でプレ展示の開催にあたり、嘱託学芸員の大学院生のみなさまには2年前から記録写真のスキャニングをはじめ、多くの時間を費やして作業にあたってくださいました。ここに感謝申し上げます。ありがとうございました。



宝来学舎全景（移転前）

後 記

「みささぎ」36号をお届けいたします。まずは原稿をいただきました光石先生にお礼を申し上げます、ありがとうございました。演習での企画展示は学生さんのひたむきが光ります。

プレ展示「ホウライ写真館－奈良大学のさいしょの最初」は、4月21日（月）から100周年の記念の年にふさわしく、博物館展示室に場所を移して企画展示を行います。こちらの展示では当時の「学旗」なども展示する予定です。奈良大学の黎明期を垣間見ていただけたらと思います。

次号は秋頃の発行を予定しております、お楽しみに。（編集担当）

発行：令和7年2月28日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500